

## 推薦のことば

この書籍を脳の一部にしてしまいたい。そう思わせるほど、机上に常備しておきたい書物の一冊です。企業の知的財産部、法務部などで知的財産権に関連する業務に携わっている人たちに、そして法律事務所や特許事務所で知的財産権の法律業務に携わっている人たちに、業務の座右の辞典として推薦します。初学者、知財実務のベテランいずれにも推奨することが出来ます。

特許権に関する権利化の手続き、侵害問題、職務発明問題など、実務家が日々の業務としている領域の中でも、頭を抱えて悩んでしまう課題を全てピックアップし、それらについての日欧米の主要な判例が網羅されております。また、実務的な課題ごとにまとめられておりますので、「除くクレームの進歩性はどやって判断されるのだったかなあ?」とか「権利消尽の理論は?」など、「これ、どうしたら良かったんだろう?」と考える時に直ぐに該当箇所が目が留められる、そういう優良書物です。判例解説ではキーポイントが簡潔に説明されております。特に役に立つのが「コメント」の項です。この「コメント」においてその判例のキーポイントの考え方や日欧米における判断の比較が非常に分かり易く解説されております。読者はここに示されたコメントに対する疑問を自ら提起・思考することができる仕掛けが施されております。更に親切にも「Questions」の項があり、漫然と読み飛ばしていたら見過ごしてしまう重要なポイントを復習することが出来るようにも構成されています。日常の知財業務で固まった脳ミソを柔らかく解きほぐすには持ってこいです。

また、最新の話題であるアメリカのAIA (America Invents Act) や欧州における欧州単一特許制度や統一特許裁判所制度にまで言及しておりますので、今直ぐ業務に応用することができます。

片山英二先生を始め阿部・井窪・片山法律事務所の先生方の知的財産分野で働く人々への貢献に感謝申し上げます。

武田薬品工業株式会社 知的財産部長  
(2012年度日本知的財産協会理事長)  
奥村 洋一

## 推薦のことば

国際派の知財法曹・弁理士、企業特許担当者に待望の日米欧の主要特許判例をコンパクトにまとめた本が出版された。序章として日米欧の訴訟手続の概要が解説されており、侵害訴訟の無効の抗弁で頻繁に問題となる特許要件、侵害論におけるクレーム解釈や均等論、損害賠償の算定に関する日本と米国及びドイツの主要判例の簡潔な事案と判旨がコメント付きで集められている。コメントでは、権利行使を意識した特許出願手続実務上の留意事項が解説され、特に米国の判決については、日本の判例と比較した分析のみならず、欧州での取扱いについても言及されている。簡潔なので実務にはぴったりだが、欧米の特許法をもっとじっくり勉強したい人はこの本を読んでから原文にあたると更に理解が深まるであろう。私が早稲田法科大学院で知的財産比較法を教えていた時にこの本があったら迷わず教科書に採用していただろう。現在、執筆中の米国・ドイツ（欧州）・日本の特許無効判断手続・侵害訴訟を比較する本でも、「日米欧重要特許判例解説」に収集された日本の判例を是非参考にしたい。

ワシントン大学ロースクール教授  
先端知的財産研究センター（CASRIP）所長  
竹中 俊子